

組織目標評価報告書（令和2年度）

17-3

部局名： 大学院医歯薬学総合研究科 薬学系 部局長名： 三好 伸一

目標・取組	目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>①教育領域</p> <p>【教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上)】 ①国立医薬品食品衛生研究所との連携大学院に在籍する学生に対して、オンラインでの授業実施体制を整える。 ②FD部会主催による定期的な教員FDに参加し、教員間での教育(講義・研究活動)に関する意見交換を行い、教育の質の検証ならびに改善に努める。 ③世界トップレベルの研究者を外部非常勤講師として招聘し、大学院講義のみならず、学部生・大学院生・教員を対象とする特別講演会を開催してモチベーションの向上を図る。</p> <p>【教育方法・内容】 ①大学院1年次生のための「教養教育」に相当する講義を実施し、シャトルカード等を活用して受講生と教員の積極的な意思疎通を図り、問題点があれば改善に努める。従来の講義体制についても同様の検証を進める。 ②配属研究室以外の教員を副指導教員とし、学生支援体制の強化を図る。 ③各種サポートが必要と思われる学生(病気、障害、不登校等)に対して、担当教員を選定しフォローすることで、学生支援体制を強化する。</p> <p>【教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について】 ①卒業後の進路に関する意識調査結果に基づく大学院教育と学生の進路との関係ならびに課題について、継続して検証する。</p> <p>【国際共同による教育の状況】 ①博士課程・博士後期課程への外国人留学生の受入れを組織的に推進するために、ONECUSへの参画に向けた整備を始める。 ②海外特別入試の実施に向けた整備を始める。</p> <p>【外国人留学生の受入状況】 ①博士後期課程在学中のダブル・ディグリープログラム履修学生1名への成均館大学薬学校(韓国)と連携した共同研究指導を継続実施する。 ②博士後期課程在学中のミャンマーFDA職員2名およびハイフォン医科薬科大学教員1名に対する研究指導を継続実施する。</p>	<p>教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>【教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上)】 ①講義の撮像データをStreamにアップロードすることで、連携大学院の学生だけでなく、全大学院生がオンラインでも受講可能な体制を整えた。 ②FD部会(学部と共通)主催の教員FDを開催し、教員間での教育(講義・研究活動)に関する意見交換・教育の質の検証ならびに改善に努めた。 ③世界トップレベルの研究者を外部非常勤講師として任用し、オンラインあるいはオンラインでの特別講演会を開催してモチベーションの向上に繋げた。</p> <p>【教育方法・内容】 ①大学院1年次生のための「教養教育」に相当する講義およびその他の講義を対面あるいはオンラインで実施し、シャトルカードやオンラインツールを活用して、双方向性の意思疎通と問題点の改善に努めた。 ②配属研究室以外の教員を副指導教員とし、学生支援体制の強化を図った。 ③各種サポートが必要と思われる学生(病気、障害、不登校等)に対して、担任、保健管理センターおよび学生総合支援センターとの連携を図り、合意された合理的配慮文書を作成し、科目担当者に正式に依頼できる枠組みを構築した。</p> <p>【教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について】 ①卒業後の進路に関する意識調査結果に基づく、大学院教育と学生の進路との関係ならびに課題について、継続して検証した。</p> <p>【国際共同による教育の状況】 ①博士課程・博士後期課程への外国人留学生の受入れを組織的に推進するために、ONECUSでの薬学系領域への受入を可能とした。 ②2021年10月入学海外特別入試の募集要項を作成し、公表した。</p> <p>【外国人留学生の受入状況】 ①博士後期課程在学中のダブル・ディグリープログラム履修学生1名への成均館大学薬学校(韓国)と連携した共同研究指導を継続実施した。 ②博士後期課程在学中のミャンマーFDA職員2名のうち、1名は課程を修了し学位が授与された。健康上の理由で帰国加療(休学)中であった他の1名は自主退学となった。ハイフォン医科薬科大学教員1名に対する研究指導を継続実施した。</p>
<p>②研究領域</p> <p>【研究の実施体制ならびに実施状況】 ①昨年度開設した連携大学院である国立医薬品食品衛生研究所レギュラトリーサイエンス関連部門に博士後期課程の院生が進学したことから、毒性学研究室(小野教授)との連携プロジェクトを開始する。 ②薬効解析学研究室(上原教授)と国立衛研薬理部門との連携プロジェクトに加えて、さらに多くの連携を模索し、共同研究体制を整える。 ③これらの取り組みをHPなどで紹介し、多様な大学院生を引き続き募り、リカレント教育を充実させる。</p> <p>【研究資金の獲得状況】 ①昨年度に引き続き、科研費を含む外部資金獲得に関して、当該教員全員(100%)が応募するよう努める。その際に、応募件数も教員当たり1以上となるよう、複数の科研費に応募する教員数を増やすように、教員会議を通じてアナウンスする。 ②採択率向上を目的とし、有志教員による調書の添削も実施する。</p> <p>【国際共同による研究の状況】 ①博士後期ダブル・ディグリーでの国際共同研究を推進する。</p> <p>【女性・外国人研究者の受入状況】 ①博士後期課程でのミャンマーFDA職員2名(うち1名が女性)の研究指導を継続する。 ②博士後期課程でのハイフォン医科薬科大学教員1名(女性)の研究指導を継続する。</p> <p>【外国研究機関における研究従事状況】 ①インド国コルカタ市のコレラ及び腸管感染症研究所に教員3名が常駐し、下痢症感染症に関する国際共同研究を継続して実施する。</p>	<p>研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>【研究の実施体制ならびに実施状況】 ①国立医薬品食品衛生研究所と毒性学研究室(小野教授)との連携プロジェクトは順調に進捗し、第94回日本薬理学会年会において口頭発表を行った。 ②本年度はCOVID-19感染拡大の影響により、国立衛研薬理部門等との研究交流が困難な状況となった。iPS細胞を用いた共同研究を引き続き計画・実施する予定である。 ③本年度はCOVID-19感染拡大の影響により、①および②の取り組みをHPなどで紹介することが困難な状況となった。</p> <p>【研究資金の獲得状況】 ①科研費を含む外部資金獲得に関して、退職者を除く教員の科研費申請率は100%であった。その際に、応募件数も教員当たり1以上となるよう、複数の科研費に応募する教員数を増やすように、教員会議を通じてアナウンスした。 ②採択率向上を目的とし、有志教員による調書の添削も実施した。</p> <p>【国際共同による研究の状況】 ①博士後期ダブル・ディグリーでの国際共同研究を継続した。</p> <p>【女性・外国人研究者の受入状況】 ①博士後期課程でのミャンマーFDA職員の1名(女性)については、健康上の理由で自主退学となった。 ②博士後期課程でのハイフォン医科薬科大学教員1名(女性)の研究指導を継続した。</p> <p>【外国研究機関における研究従事状況】 ①本年度はCOVID-19感染拡大により、国際共同研究の実施が困難な状況となった。インド国コルカタ市の国立コレラ及び腸管感染症研究所に常駐していた教員は、危機管理上の配慮により5月に緊急帰国した。それ以降、渡航できない状況が続いていたが、2月に渡航・常駐が可能となり、次年度以降の下痢症感染症に関する国際共同研究への準備を行った。</p>
<p>③社会貢献(診療を含む)領域</p> <p>【国際交流・協力】 ①成均館大学(韓国)、ハイフォン医科薬科大学(ベトナム)、サン・カルロス大学(フィリピン)との連携をさらに深めるとともに、交流協定(新規)締結に向けてバンメート大学(ベトナム)との協議を進める。</p> <p>【地域社会との連携、社会貢献】 ①薬剤師及び一般社会人等を対象とした薬学部公開講座の開催等を通じて、薬学に関する最新情報の提供と知識の向上・啓発に努める。 ②地域の職能団体等と連携した卒前・卒後教育の実施、岡山県薬剤師研修協議会と連携した各種薬剤師研修事業への参画を推進する。また、中高生の薬学への理解を深めるための連携事業を推進する。 ③各種講演会等にあわせて薬用植物園の一般公開を実施し、薬学関連の科学に対する社会的な理解を進める機会とする。</p> <p>【その他】 ①同窓生の交流を推進するため、岡山大学ホームカミングデーにおいて、卒業生と在学生在が交流する機会を設ける。また、同窓生との交流を継続化するためのシステムを構築する。</p>	<p>社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>【国際交流・協力】 ①成均館大学(韓国)、ハイフォン医科薬科大学(ベトナム)、サン・カルロス大学(フィリピン)、バンメート大学(ベトナム)との連携をさらに深めるための相互訪問は、世界的なCOVID-19感染拡大のため実施できなかった。しかし、ハイフォン医科薬科大学の若手教員1名を博士課程の国費留学生(優先配置枠)に推薦することが出来た。</p> <p>【地域社会との連携、社会貢献】 ①薬剤師および一般社会人等を対象とした薬学部公開講座、高校生および一般社会人を対象とした公開講演会を計画したが、COVID-19感染拡大により今年度は中止した。COVID-19感染拡大の状況下においても最新情報の提供と知識の向上・啓発をオンライン、対面の両面を進められるよう対策を進めた。 ②岡山県薬剤師研修協議会等、地域の職能団体等と連携した卒前・卒後教育を計画したが、COVID-19感染拡大により今年度の実施を断念した。高大連携事業については当初は中止または延期していたが、7月以降はオンライン形式により再開し、岡山大学薬学部での研究や求める学生像を周知した。また、岡山大学付属中学校の大学訪問もオンライン形式で実施し、薬学部の取組や薬剤師の役割について講義を行った。オンライン開講により例年(10名程度)よりも多くの生徒の参加(50名程度)が得られた。 ③公開講演会、公開講座、ホームカミングデー2020等にあわせて薬用植物園の一般公開を実施する計画であったが、COVID-19感染拡大により今年度の実施は断念した。</p> <p>【その他】 ①ホームカミングデー2020において、卒業生・在学生等をターゲットとした同窓生シンポジウムを開催する予定であったが、今年度の実施は断念した。中止に至った経緯などをホームページで告知し、卒業生との連携を進めるべく広報に努めた。</p>
<p>④管理運営領域</p> <p>【部局運営体制の改善強化】 ①医学系、歯学系との継続的な協力により、部局運営体制の改善強化を進めていく。</p> <p>【部局組織の活性化】 ①適切な部局運営を行うために、医学系、歯学系と継続的に協力していく。</p> <p>【ダイバーシティの推進】 ①女性教員のさらなる採用や昇進等の可能性に関して引き続き検討する。</p> <p>【効率的・戦略的な予算配分・執行】 ①省エネ意識の喚起等によって経費節減を図るとともに、各委員会等の実施計画等を精査し、より効果的な予算執行を目指す。</p> <p>【安全衛生に対する配慮】 ①適切な管理活動計画を立案し、それに基づいた適正な安全衛生活動を推進する。</p> <p>【施設整備の推進】 ①安全・安心な教育研究環境を確保するため、現有施設の点検および機能改善整備を推進する。</p> <p>【法令遵守の徹底】 ①情報セキュリティ、適切な会計処理、適正な研究活動等に関して、継続的に法令遵守について啓発するとともに、講習やwebシステム等による確認と周知を図る。</p> <p>【テニユア審査基準の共通化・明確化】 ①テニユア審査基準について作成し、周知する。</p>	<p>管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>【部局運営体制の改善強化】 ①医学系、歯学系との継続的な協力により、部局運営体制の改善強化を進めた。</p> <p>【部局組織の活性化】 ①適切な部局運営を行うために、医学系、歯学系と継続的に協力した。</p> <p>【ダイバーシティの推進】 ①女性教員のさらなる採用や昇進等の可能性に関して引き続き検討し、昨年度着手した女性教員1名の内部昇任を8月1日付で完了した。</p> <p>【効率的・戦略的な予算配分・執行】 ①省エネ意識の喚起等によって経費節減を図るとともに、各委員会等の実施計画等を精査し、より効果的な予算執行を行った。</p> <p>【安全衛生に対する配慮】 ①適切な管理活動計画を立案し、それに基づいた適正な安全衛生活動を推進した。</p> <p>【施設整備の推進】 ①安全・安心な教育研究環境を確保するため、現有施設を点検し、機能改善の整備を進めた。</p> <p>【法令遵守の徹底】 ①情報セキュリティ、適切な会計処理、適正な研究活動等に関して、継続的に法令遵守について啓発するとともに、講習やwebシステム等による確認と周知を図った。</p> <p>【テニユア審査基準の共通化・明確化】 ①テニユア審査基準を8月に作成し、准教授や助教の採用時の周知基準とするとともに、現教員の審査における参考基準とした。</p>